



海輪 誠

一般社団法人東北経済連合会 会長

「わきたつ東北」に向けて「飛躍の年」へ

東日本大震災から、間もなく7年が経過しようとしています。

この間、被災地では復興道路などインフラ面での整備や、住まいの再建・復興まちづくりの取り組みが着々と行われてきました。また、観光面では東北地方の外国人宿泊者数が最多を記録し、震災前の実績を大きく上回るなど、明るい兆しも見え始めています。一方、いまだ多くの方々が避難生活を強いられている状況や、風評被害対策など福島復興・再生、被災地における観光業や小売業の業績回復の伸び悩みなど、復興に向けた課題は依然として多く残されています。

そのような状況の中、東経連新ビジョン「わきたつ東北」を策定して1年が経ちました。2020年度までの復興期間終了が迫る中、より一層のスピード感で復興の加速化に取り組むとともに、東北の輝かしい未来に向けて、「地域社会の持続性と魅力を高める」「稼ぐ力を高める」「交流を加速する」という新ビジョンの3つの柱のもと、さまざまな事業活動に取り組んでまいりました。

そして、当会が目指す東北の将来像「わきたつ東北」実現への萌芽も見られています。当会が取り組んでいる国際リニアコライダー(ILC)の誘致については、昨年11月に加速器の全長を縮小して初期の整備コストを抑える新計画案が研究者の国際会議において承認され、実現可能性が大きく高まりました。文部科学省の有識者会議での検討内容が今年3月にも取りまとめられ、その結果を踏まえて今年夏頃までに日本政府が誘致の是非を判断すると見られています。また、同じく当会が取り組んでいる東北放射光施設計画についても、次世代放射光施設の必要性に関する文部科学省の小委員会での議論が大詰めを迎えており、「わきたつ東北」へとつながる2大プロジェクトがそれぞれの実現に向けて山場にさしかかっています。

また、外航クルーズ船誘致についても、海外の船会社への積極的なプロモーションを重ね、今年7月のダイヤモンド・プリンセス号(11万6千トン)の石巻港、酒田港への初寄港実現に結びつくなど、東北へのクルーズ船寄港回数は着実に増加しています。

さらに、昨年10月には航空宇宙産業をテーマに「東北産学官金サロン」を開催し、東北における同産業の育成・強化に向けた広域連携の機運が高まりました。

この他、多くの分野で東北7県の広域連携、産学官金の連携に向けた取り組みが進展しています。

今年の干支は「戊戌(つちのえいぬ)」です。この年には新しい動きや変化が生まれると言われています。当会としても、東北の産学官金の皆様とともにさまざまな事業活動を展開し、「わきたつ東北」実現に向けて飛躍する年にしたいと思います。

本年も会員をはじめ関係各位の皆様からのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(東北電力株式会社 取締役会長・かいわ まこと)